
信じられない...

桜 元

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
信じられない…

【Nコード】
N8108C

【作者名】
桜 元

【あらすじ】
前作の続きです感想コメントよろしくお願いします

疲れました（前書き）

前作に感想、コメント、評価を下さった方々、本当に励みになりました、落ち着いて夫と話し合いたいと思っております

疲れました

信じてる？

信じてない？

好き？

嫌い？

必要？

必要ない？

何が正しくて

何が間違っているのか、それすらも分からない

暗闇の中へ突き落とされたよう

全てが夢で

目が覚めた時、あなたが抱きしめてくれたら

「おはよう、変な夢見ちゃった」で、笑えるのに

家業が好きではないあなた

携帯をいじくり食後、仕事に行こうとしない

仕事に行ったお父さんを見て『仕事は？』とお母さんが聞けば

『今行く』とやる気の無い返事

結婚したばかりの頃よく言ってたよね

『結婚していなければ家を出ていた』

あなたにとって私は家に縛り付ける鎖だったの？

やりたくない仕事をさせるための存在でしかなかったの？

結婚生活を幸せと感じそれを維持しようとしていた私は、あなたにとって邪魔なだけ？

あなたが仕事をしたくないと思うより強く…私も思っていた事があるの

結婚当初、私はこの地に馴染めなかった

風習も何もかもが違う

「これって…こんなんですか？」

と聞けば、「しゃーないね、町場の者は」と言われてしまう

散歩すればあそこ嫁さんは車に乗らんのか？と言われ噂話のネタにされる

外出…出来なかった

24時間、家族の顔だけ見て過ごす日々

何とも言えない孤独感に何度逃げ出そうと思っていたか

それでも、何とか踏ん張ってきた

あなたが側にいてくれたから

『大切』だと、『一緒にいたい』と、言ってくれたから

だから私はここまで頑張って来れたのに
やっと

やっと…ここまで来れたと思っていたのに

苦しくて

死にたい

考えなくて済むのなら
もう、死にたいよ

でも、死ぬ勇気も無い
私は臆病者

居なくなつて欲しかったら言つて
いつでも消えるから

今の私には、怒る気力さえないから

泣いて

泣いて

でも、家族にバレたくないから
お風呂場で奥歯噛みしめて泣く…

もう

疲れました

感情

もう、疲れました

別れてあげる

どうせ私はもう不要なのでしょう？

思う度

目頭が熱い

諦めている

頭では

分かってる

このままじゃいけないことは

どうしたら良いか分からない

何を守りたかったのか

それすら、分からなくなってきた

出会い系サイトの女が『後何日』、と会う日までをカウントダウンしながら

『すごく幸せ、愛されているって感じてる』

その文字を携帯ごと壊してやりたい私が居る

何が幸せ？

他人の幸せぶち壊しておいて

他人を不幸にしてまで得た幸せは普通の幸せと違うの？

恋愛ごっこは楽しいですか？

あなたの言葉『家族が大事』

冗談じゃない、笑わせないで

『最悪の事態を考えたくないから』

最悪の事態？

だったらなぜ出会い系サイトに登録なんてするの？

『裏切りたくない』

もう、しっかり裏切られてます

感情が激情となって溢れ出す

今、目の前にあなたがいたら確実にあなたを罵って、激情に任せて
何を言うか分からない

落ち着かなくては

片方が一方的になるのは話し合いではないから

ちゃんと、話し合わなくちゃ

朝、いつもと変わらず「おはよう」と言うあなた
私はそれも、許せない
後ろめたさとか、罪悪感はないの？

あつたら

あつたら…

やらない…か

信じていた

あなたは、私だけを愛してくれると
浮気、不倫など無縁だと

信じていたから、お父さん、お母さんを尊重しお父さん、お母さん
を好きになった

結婚する時、実家の母が私に言った
「帰る所は無いよ、実家は逃げ道ではないから」
その言葉が重い

私に帰る所はない
この家以外には

それは、あなたも知ってるでしょ？

結婚当初、悩み電車を見ていた私に
「帰りたい？でも、一緒に居るから、一緒に頑張ろう」

そう笑ってくれたあなた
一緒なら

2人一緒なら頑張って行ける

至らない分

私から歩み寄ればいい

言葉足らない分

私から話していけばいい

私なりに必死だった

いつしかお母さんと2人で歩く私を「仲の良い親子ね」と言われる
ようになった

その事を話した時あなたは「俺は婿か」と、ふてくされた
なら聞くけど

あなたは努力したの？

自分の居場所が家庭に無いと嘆いていたけど
自分から居場所を確保しようと働きかけた？

仕事が嫌いと言うけれど、好きになろうと努力したの？
もしくは仕事だからと割り切ることも出来たはず

あなたは何もしない
嘆いて

不満不平ばかり

何もしなければ

何も変わらない

良くも

悪くも

自分から新しい環境を作り『現実が重い』？
何それ？

そりゃ、現実重いわよ
当たり前でしょ生きているのだから

もがいて

悩んで

それでも前に進もうと、自分の中で最善を尽くす
自分の選択が間違っていたとしても…
それでも、行動しないよりはましだから

自信を持って行動してよ

裏切り行為でなければ、ちゃんと付いていくから

きちんと、話し合おう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8108c/>

信じられない...

2011年1月27日12時24分発行